

第 3 節 第二南陽園事業報告

第二南陽園の事業運営については、「利用者中心のサービスの提供」とする浴風会の基本理念に基づき、浴風会介護老人福祉施設の 3 施設のサービス指針を踏まえ運営にあたった。利用者一人ひとりが安心かつ満足して暮らして頂くことの出来る施設運営を目指すとともに、職員の能力が生かされ、働きやすい職場環境づくりを推進した。

1 利用者の状況

利用率は 96.2%で、年度予算目標を若干下回る結果となった。一方、特養の重度化を反映して入院による空床は、1 日平均 13.5 名であった。併せて年間退所者は 33 名、内死亡による退所者は 18 名であった。

(1) 利用者の概況

区 分	28 年度	29 年度
定 員	150 名	150 名
ショートステイ定員	6 名 (15 名)	6 名 (15 名)
年間延利用人員	54,672 名	54,573 名
1 日平均利用人員	149.8 名	149.5 名
利 用 率	96.4%	96.2 %
平 均 年 齢	88 歳 9 ヶ月	88 歳 9 ヶ月
最 高 齢 者	105 歳	104 歳
平均在籍年数	4 年 7 ヶ月	4 年 6 ヶ月
最長在籍年数	24 年 9 ヶ月	25 年 9 ヶ月
年間入所者数	21 名	32 名
年間退所者数	24 名	33 名

- ※ 1 ショートステイ定員の () 内は、空床利用の定員を示す。
2 「年間利用人員」「月平均利用人員」「利用率」は、ショートステイを含む。

(2) 日常生活動作等の状況 (年間平均)

区 分	28年度		29年度		対前年度 伸び率
	人 数 (名)	割 合 (%)	人 数 (名)	割 合 (%)	
食事介助者	106.7	71.1	103.9	70.6	0.97
排泄介助者	130.5	87.0	128.9	87.5	0.99
着脱衣介助者	132.9	88.6	129.9	88.2	0.98
寝返り介助者	74.5	49.7	73.8	50.1	0.99
移動介助者	119.3	79.5	116.6	79.2	0.98
整容介助者	131.4	87.6	127.1	86.3	0.97
入浴介助者(特殊浴)	64.8	43.2	67.3	45.7	1.04
入浴介助者(一般浴)	68.3	45.5	63.7	43.3	0.93

(3) 要介護度の状況 (年間平均)

区 分	28年度		29年度		対前年度 伸び率
	人 数 (名)	構 成 比 (%)	人 数 (名)	構 成 比 (%)	
要 介 護 5	58.1	38.7	60.9	45.5	1.05
要 介 護 4	45.0	30.0	48.8	36.4	1.08
要 介 護 3	21.9	14.6	17.9	13.4	0.82
要 介 護 2	5.8	3.8	4.9	3.7	0.84
要 介 護 1	4.0	2.6	1.3	1.0	0.33
平均要介護度	4.10		4.24		1.03

2 施設運営基本方針の実施状況(概要外特記事項)

(1) 地域との協働と社会貢献

① ボランティアの養成と協働体制の充実について

各ボランティアの受入調整についてはサービス課長及び地域連携担当を窓口として対応した。本年度のボランティアの活動状況は、動物ふれあい活動137名を含むクラブ活動延690名、清拭たたみ延523名、庭造り・庭草むしり105名、他慰問等延422名他、計2,118名の方々にご協力いただいた。

② 地域貢献について

施設利用要綱により、活動室、集会室、車椅子(介護保険制度に拠らない)の貸出サービスを地域住民に対して行っており、29年度は延7件の利用(貸

し室 5 件、車椅子 2 件)があった。

昨年度同様、近隣の富士見丘小学校・高井戸中学校へ、特養三施設・ケア 24 高井戸と共同して、生徒の福祉授業の講師として職員を派遣した他、現場の社会福祉士を、福祉系大学の特別授業に講師として派遣した。

(2) 利用者中心のサービスの提供

① 生活の質の向上について

重度化が進むなかで浴風会病院及び他医療機関と連携し、医療ニーズに応えた。29 年度において、浴風会病院へ入院搬送したケースは延べ 98 名、これとは別に外部病院へ搬送した利用者は延 7 名、うち、救急搬送は延 3 名となっている。

② 感染症予防管理体制の充実

11 月末には、季節性インフルエンザの予防接種をご家族の同意を得たご利用者に実施した。職員についても 60 名が予防接種を行った。インフルエンザについては、ご利用者の発症は 25 名だった。

一方、ノロウイルス、ロタウイルス共に発症は見られなかった。

(3) 専門職の連携を生かせる職場づくり

① 研修体制の充実について

本年度は、法人本部で行う新人、中堅、幹部等各階層研修に延 105 名の職員が参加し、第二南陽園内部で開催した感染症対策、ポジショニング、労務管理等の研修に延 225 名の職員が、また、3 特養で開催した研修には延 165 名の職員が参加した。3 特養で開催した研修においては、今年度サービスマナー及び身体拘束に関して外部講師を招き悉皆研修を実施し、サービスマナー研修に関しては延 82 名、身体拘束研修に関しては延 49 名が参加した。外部研修については、計 73 回・延 103 名の職員が研修会に参加し、それぞれの職種において、ブラッシュアップと研鑽に努めた。

浴風会実践研究発表会では、1 階フロアに於ける「インカム導入の効果～リアルタイムでの情報共有を目指して～」をテーマに実践報告を行い、一昨年、昨年に続き最優秀賞を受賞した。

② キャリア段位制度について

キャリア段位制度による職業能力評価を実施し、2 名のレベル認定を取得

した。アセッサー（レベル認定評価者）についても今年度は新たに3名養成し、30年度は更なるレベル認定取得を目指している。

(4) 安定的経営基盤の確保

① 人材確保について

法人本部とも連携して介護人材確保に当たり、一般求人広告のほか、ハローワーク、福祉人材センター、ウェブでの求人等を活用しながら幅広く人材確保に努めた。また、初任者研修開催校と連携し現場見学実習を定期的に受け、資格取得後に継続して勤務をしていただく仕組みづくりにも取り組んでいる。29年度も引き続き福祉人材の需要は高く、有資格者、経験者の確保がとりわけ難しく、一部は派遣・紹介職員も採用し対応した。

② 施設・設備の維持について

29年度は、洗濯室及び各フロアの汚物除去機の更新を行った。

3 利用者へのサービスについて

利用者への介護サービスの提供に当たっては、利用者・ご家族の意向を伺い、施設サービス計画書を策定し、同意を得た上で実施した。

食事は、管理栄養士を中心に、栄養マネジメントを適切に実施した。毎月の食事懇談会や食事委員会を開催し、利用者の意見を聞き取り、献立、調理に反映させ、喜ばれる食事の提供に努めた。検討の際は、各部署から出された意見、要望、苦情などを、具体的な内容と統計で把握し、問題検討を積み重ねてきた。誕生会、納涼祭などにおいて季節の食材を楽しんでいただける行事食の提供を始め今年度は開設記念日に行っているフルーツバイキング、デザートバイキングを同時に行うことで「食べる楽しみ」の一層の充実を図った。

嚥下機能の低下や体重減少が見られる利用者に対しては、訪問歯科、多職種と連携し、安全にきちんと食事摂取ができるよう検討し、対応した。ご家族の協力も得ながら、8名の方に嚥下内視鏡を使った摂食状況診断も行い、口腔機能の維持、食形態の適正化を図ってきた。

入浴介助や排泄介助、着脱介助、移乗、体位変換という基本的日常介助については、個々のサービス計画に基づいて適切に実施した。

また、外出支援として、日常の園内の散歩とは別に、年2回のバスハイクを実

施した。29年度は5月26日、10月6日の両日ともにあいにくの雨により「池袋サンシャイン水族館」へ向かうこととなったが、ご家族の協力も得ながら計16名の利用者、ご家族6名が参加した。各フロアとも個別に、近隣レストランでの食事会や散策、デパートやスーパーマーケットなどでの買い物等、外出の機会を増やすべく企画し、実施した。

健康管理については、浴風会病院と連携を図り、医療業務委託契約により内科医、精神科医の定期的な診療及び健康管理を受けた。看護・介護の連携を図りながら、疾病の早期発見、早期治療に努めた。また、介護職員等による痰の吸引等の実施要綱に基づき、指導看護師により適宜介護職員の指導研修を行った。医師、看護職員、介護職員を始めとする多職種連携のもと、安全な実施に心がけた。

機能訓練については、利用者によりきめ細かく機能訓練計画を策定し、必要に応じて医師の指示も仰ぎながら、必要と思われる訓練を行った。クラブ活動、レクリエーション、行事、日常生活動作等を通じ身体機能の維持を図り、利用者の生活意欲を引き出すべく取り組みを行った。多職種との連携のもとに、適切なシーティング・ポジショニングを通じた生活環境の向上を目指して取り組んだ。

また、利用者・ご家族には、施設運営上の取り組み等の情報を全体家族会及び利用者懇談会等において適時提供するとともに、月例にて情報提供文書を郵送し、また、カラー写真を載せるなどした季刊「フロアだより」を郵送する等、利用者の近況報告と併せて、ご理解をいただくよう努めた。更に、利用者の体調変化など日頃より連絡を密にし、相互信頼関係を築くよう努めた。

サービス提供の基本となる接遇マナーに関しては、外部研修並びに法人主催の内部研修等に積極的に参加させ、サブリーダーを中心として研修報告会を開催した。

更には、潤いのある充実した生活を送っていただくよう動物ふれあい活動、各種ボランティア活動、各種クラブ活動等について、より一層の拡充と定着を図ってきた。

4 施設の運営・管理について

(1) 苦情対応について

苦情対応については、園長以下、苦情受付担当者他関係職員が誠意をもって

その内容を受け止め、苦情発生時、その後の取り組み経緯並びに結果報告については極力迅速に対応する一方、掲示板での情報公開を行った。

日常から利用者ご家族とのコミュニケーションを大切にして、ご要望などが話しやすい関係作りに努めた。家族会での苦情窓口の説明や文書配布による制度説明、法人内外の相談窓口の周知にも努めた。

なお、苦情の内容は(別表 2)のとおりである。

(2) 家族会の開催及び家族との連携について

29年度の家族会実施状況は以下の通りであり、全体会では、29年度の事業現況、平成30年度介護報酬改定の概要とそれに伴う契約書別紙の改定、29年度の第三者評価の概要を主な内容として説明を行った。また、各階家族会もフロアグループ毎の家族懇親会を行い、ご家族とは、より距離感の近い交流会となり好評であった。

全体会 平成30年3月 25日(日) 29家族 44名参加

納涼祭 8月 6日(日)

各階家族会 1階 9月 18日

2階 10月 15日

3階 11月 19日

ご家族との連携においては、日頃から生活相談員を始め、介護・看護職員により、電話連絡や、面会時での伝達、郵送等による方法において、必要な連絡連携に努めた。

(3) 業務の見直しと改善について

本年度は、洗濯室及び各フロアの汚物除去機の更新を行った他、利用者の枕をワンサイズ大きなものに全て交換を行った。

(4) 職員の健康管理及び労働災害の防止について

職員の健康管理については、定期健康診断は延べ133名が受診し、胃部レントゲン検査は15名が検診を受けた。

年2回延べ92名の職員に対して腰痛検診を行うとともに、医師からのアドバイスをそれぞれの職員に伝えた。また、腰痛予防のため腰痛予防ベルトを職員に貸与した。

直接処遇職員については、毎月の細菌検査を実施した。インフルエンザワク

チン接種については、施設の負担で希望する職員を対象として予防接種を行った。

また、ストレスチェックに関しては、76名の職員を対象に実施し、その分析結果に関して検討を行った。

なお、労働災害の対象職員に対しては、速やかに手続きを行った。(今年度該当者は2名)

(5) 災害の予防と訓練について

防災対策として、毎月の自衛消防訓練、救命講習会への参加、消防設備機器の整備点検等を通し、防災技術・意識の向上及び安全対策に努めた。

今年度は法人全体の総合防災訓練において第二南陽園を実施場所とし、杉並消防署及び地域防災の応援協定に基づき、杉並消防署・各町会応援者の協力を得て防災訓練を実施した。

また、昨年度に引き続き、災害時の備蓄物品の更新を図ると共に、普通救命講習にも参加し、2名の職員が認定を受けた。

5 第二南陽園事業計画(重点取り組み事項)について

【事務室】

来訪者に対して、笑顔での対応を心掛け、お電話での問い合わせに対しても、明るいき調での対応を心がけた。また、他の施設に関する問い合わせについても地図を渡してご案内した他、当該施設の担当者に連絡を取る等来訪者が求めている情報に的確に繋げるよう努めた。

【栄養室】

経口維持対象者をはじめ、新入所・食事量低下・体重減少が見られたご利用者に関しては、担当医・看護師・歯科医師へ相談と助言を求め、他職種との相談や話し合いを行い改善できるよう努めた。

料理クラブには、他予定と重なり8回中4回の参加しかできなかった。来年度は、参加できるよう日程調整も含め、フロアと協力し参加を継続していくよう努めていく。

【医務室】

医務室ミーティングを毎日行い、全フロアご利用者の状態把握に努め、フロ

アラウンド時には他職種と情報交換を図り健康管理を行い、状態変化があった際は、早期に病院受診に繋げていくことができた。

ケアワーカー対象に感染症研修を実施し感染予防に努めたが、1年間でインフルエンザに罹患されたご利用者が25名いた。引き続き標準予防策の徹底に努めていく。

【機能訓練室】

他職種と連携を図り福祉用具の活用や機能訓練計画の実施に心掛けた。昨年度よりも環境支援にかかわるケースも増え、委員会に参加することで他職種との意見交換等を行い連携強化につながっている。しかし、実施記録や福祉用具管理が曖昧になってしまう部分も見られ、ご利用者との関わりを密にし機能維持に繋げられるよう3月よりフロア担当制を導入した。

【生活相談員】

ベッドの利用率は96.2%と目標を下回る結果となった。年間入院者数は、97名と昨年よりわずかに減少しているも、重度化が進みショートステイ利用者確保が十分でなかったことが原因として挙げられる。杉並区の新規特養の参入の影響によりショートステイ新規契約者数は73名と伸びが少なかったことも大きい。行政、居宅介護支援事業所との連携により、緊急ショート9件（加算取得）の受け入れを行った。生活相談員の増配置もあり、可能な限り迅速な受け入れを行うことができた。

近隣小学校との交流のひとつである写生会は今年度も実施され、描かれた絵については展覧会を実施した。それにより、富士見丘小学校の父母や教員の方々、地域の高齢者に多く足を運んでいただくことができた。また、運動会や学芸会のご案内を学校側からいただき、ご利用者の外出支援にもつながった。

【1階フロア】

認知症ケアの勉強会の開催はできなかったが、フロア会議で個別ケアについて検討し、認知症の理解や尊厳を守るケアへつなげられるよう取り組んでいた。

外出支援や料理クラブ、フロアの飾りつけを通じて、四季を感じていただけるに努めた。

【2階フロア】

虐待の芽チェックリストを活用し、自身の対応を振り返るとともに、グルー

プごとで研修会を行い、具体的な改善点や他職員の良いところを上げフロア全体でサービスマナー向上に努め、職員個々の意識は上がってきている。

個別カンファレンスを行い、その都度職員の関わり方やご本人のご希望に沿った支援に努めている。

【3階フロア】

グループリーダーを中心に目標を計画することで、グループ内での課題や職員一人ひとりの技術・知識の向上につなげることができた。

ヒヤリハットのカンファレンスがすぐに行えなかった。しかし、事故報告はすぐにカンファレンスを開催し、振り返りも定期的に行うことができた。同じヒヤリハットの繰り返しもあり、カンファレンスの仕方等改善に努めていく。

アクティブ福祉での発表を通して、係を中心にポジショニングケアに対して考えることができた。機能訓練指導員とも連携を図り、積極的に取り組めた。

【リーダー会議】

サブリーダーを中心に新人育成や業務改善に取り組み、課題検討を行いサービス向上に努めた。

他委員会と連携を図り、物品等の見直しを行うことでコスト削減に心掛けた。

【サブリーダー会議】

研修報告会は、講義以外に食事支援・ポジショニング体験、ヒヤリハットの分析などを行い、気づきの力を向上させることを目的に行うことができた。

新人育成では、チェックリストだけでなく多職種でそれぞれ役割を持って指導することができた。

【褥瘡対策委員会】

褥瘡の改善が見られないご利用者の体圧測定を行い、多職種で取り組みを行い、褥瘡完治につなげることができた。また、皮膚トラブルが見られた際も、早期改善に努められた。

ご利用者個々の排泄パターンを把握し、個々に合った排泄用具を使用することで、経費削減にも努めることができた。

【身体拘束廃止委員会】

年度当初は2名の方が身体拘束を行っていたが、多職種と連携を図り身体拘束を解除することができた。今年度新規で1名の方の身体拘束を実施したが、

日々の記録やカンファレンスで検討を重ねることで、身体拘束を行う時間を短縮することができている。

虐待の芽チェックリストを年2回実施し、フロア会議や委員会で課題分析を行い、サービスマナー向上に努めた。

【ケアプラン委員会】

モニタリングは具体的に書かれてわかりやすくなってきたが、3か月に一度ご家族郵送用モニタリング作成は、ケアワーカーの負担も増えてしまったため、郵送方法について検討を行い改善に努めた。

施設サービス計画書の内容を向上させるために、各フロアの計画書を持ち寄り検証することで、介護支援専門員の意識統一を図るように努めた。

【リスクマネジメント委員会】

研修報告会で、「KYTシート」を活用した勉強会を実施したが、フロアへの浸透はできなかった。しかし、インカムを全フロアに導入したことで、職員の「報・連・相」の意識は高くなっている。連絡ミスによるヒヤリハットの減少に繋がられている。

【記録委員会】

記録項目の整理を中心に行ったが、他フロアとの調整が難しく統一することができなかった。

日々の記録も、「表情」「言葉」「動作」を入れた記録を心掛けたが、記録を持ち寄り検証するまでには至らなかった。

【口腔ケア委員会】

経口維持のため、食事摂取状況の観察強化及び多職種会議を持った。

口腔ケア技術向上のため各フロアでの勉強会を計画したが、実施できないことも多く、委員会の中で歯科医・衛生士からのアドバイスをフロアに持ち帰り、周知するよう努めた。

【食事委員会】

選択食で20都道府県の郷土料理を提供したが、ご利用者の出身地は10か所20名であった。ご利用者全員の郷土料理を提供するには至らなかったが、最近召し上がっていない料理が提供できたことで、ご利用者からは「楽しい」との声をいただいた。

各フロアで食事中に静かな音楽をかけたり、花を飾るなどを行うほかに、口腔ケア委員会や委託業者と連携を図り、食事提供方法の変更などご利用者が安心して食事をしていただけるよう提供方法・環境作りに務めた。

【機能訓練委員会】

車椅子の点検整備清掃は、引き続きチェック表を用いて取り組み清潔保持に努めた。他福祉用具の管理ができておらず、今後の課題となっている。

安楽な姿勢保持のため、機能訓練委員会を中心に、ポジショニング研修会を開催した。研修後の振り返りができなかつたため、引き続き取り組んでいく。

【アクティビティ委員会】

年間行事の他に、他フロアのクラブ活動に参加していただけるよう情報共有を行い、ボランティアの協力もあり楽しんでいただける機会を増やすことができた。

感染症等の理由で前年度に比べ外出支援が減少してしまったが、ご利用者の希望に沿った外出支援を延べ60名行うことができた。

【実習者担当委員会】

今年度は、ギター演奏・アロママッサージ・散歩・富士見丘中学生が新たなボランティア活動に参加していただき、ご利用者からも好評であった。

実習生は、昨年度より減少しているが、実習目標が達成できるよう地域連携担当とフロア実習担当で連携を取り支援することができた。

6 諸会議の実施状況について

サービス経営会議	47回	リーダー会議	12回
サブリーダー会議	12回	食事委員会	12回
行事検討会議	12回	機能訓練委員会	12回
事故防止対策委員会	18回	防災委員会	12回
安全衛生委員会	12回	身体拘束廃止委員会	12回
感染対策委員会	12回	業務改善委員会	7回
記録委員会	10回	褥瘡防止対策委員会	12回
実習担当者委員会	5回	口腔ケア委員会	12回
ケアプラン委員会	12回	喀痰吸引等安全委員会	4回

7 主要行事等の実施状況について

平成29年度に実施したクラブ活動及び主要行事等は次のとおりである。

(1) クラブ活動実施状況

動物ふれあい活動（偶数月第一木曜日）	6回	（延 188名）
フラワーアレンジメント（第三土曜日）	11回	（延 159名）
みさっこ・ひろっこ（第三木曜日）	10回	（延 268名）
はがき絵（第三月曜日）	12回	（延 58名）
音楽クラブ（第一・三月曜日）	19回	（延 673名）
高混クラブ（第一土曜日）	21回	（延 745名）
フルート演奏（第二水曜日）	16回	（延 522名）
アートセラピー（第二火曜日）	12回	（延 86名）
ギター演奏会（第二木曜日）	12回	（延 413名）
折り紙クラブ（第四木曜日）	9回	（延 43名）
コーヒー喫茶（第四木曜日）	13回	（延 81名）
書道クラブ	14回	（延 85名）
将棋・囲碁倶楽部	48回	（延 82名）
アマリリスの会	11回	（延 355名）
園芸クラブ	42回	（延 102名）
ギター&マンドリン	6回	（延 181名）
アロマハンドマッサージ	11回	（延 107名）
げんき会	12回	（延 434名）
アニマルセラピー	4回	（延 131名）
	計	延 4713名

(2) 主要行事实施状況

（別表3）のとおり実施した。

8 寄付金等の状況について

平成 29 年度については、延 4 家族より合計 10,097,328 円の寄付金をいただきました。また、様々なご寄贈があり、それぞれの方々の意向に即し、施設運営の為に有効活用させて頂いた。